
北海道浮魚ニュース

令和 8(2026)年度 5 号

2026 年 6 月 26 日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎6 月浮魚類分布調査

調査時点では浮魚類の魚探反応量は極めて低水準

ロシア主張 200 海里内でのさけ・ます流し網漁業の代替として始まったサバ・イワシ棒受網漁業等へ漁場情報を提供するため、調査を実施したので結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2026 年 6 月 11～18 日
- ・ 調査方法：計量魚群探知機および全周ソナーによる魚探反応量の計測
CTD、XCTD による海洋観測
NEAR-GOOS*表面水温（6 月中旬）の解析
表層トロールによる漁獲試験
※NEAR-GOOS 地域リアルタイムデータベース
http://ds.data.jma.go.jp/gmd/goos/data/rtrdb/data_usage_J.html
- ・ 調査海域：道東太平洋海域

1. 水温分布（図 1）

2026 年 6 月中旬の道東沖は過去 3 年間の同時期と比べて、親潮系水が広域に分布しており黒潮系北上暖水が波及していなかったため、表面水温は 8℃～12℃台と低水温でした。

2. 計量魚探調査（図 1）

2026 年 6 月調査では浮魚と思われる反応量は極めて低水準でした。計量魚群探知機の平均反応量は $72 \text{ m}^2/\text{nmi}^2$ で、2023 年および 2024 年の 6 月調査の反応量と比べて非常に低く（2023 年： $1,760 \text{ m}^2/\text{nmi}^2$ 、2024 年： $1,794 \text{ m}^2/\text{nmi}^2$ ）、2025 年の 6 月調査の反応量と同程度でした（ $82 \text{ m}^2/\text{nmi}^2$ ）。

3. 表層トロール調査での漁獲尾数（表 1、図 2～3）

調査期間中、4 点の表層トロール調査を行い、そのうち 2 点でカタクチイワシが 272 個体漁獲されました（表 1、図 3）。表層トロールによる 6 月浮魚類調査が始まった 2021 年以降、カタクチイワシの漁獲尾数は最も多くなりました。調査点別の体長組成をみると、IW01 では体長 5.5cm 台が、IW03 では体長 6.0cm 台が、それぞれ最も多く漁獲されました。

なお、スルメイカが 10 個体漁獲されましたが（外套長：7.0～11.7cm）、マイワシとサバ類は漁獲されませんでした。

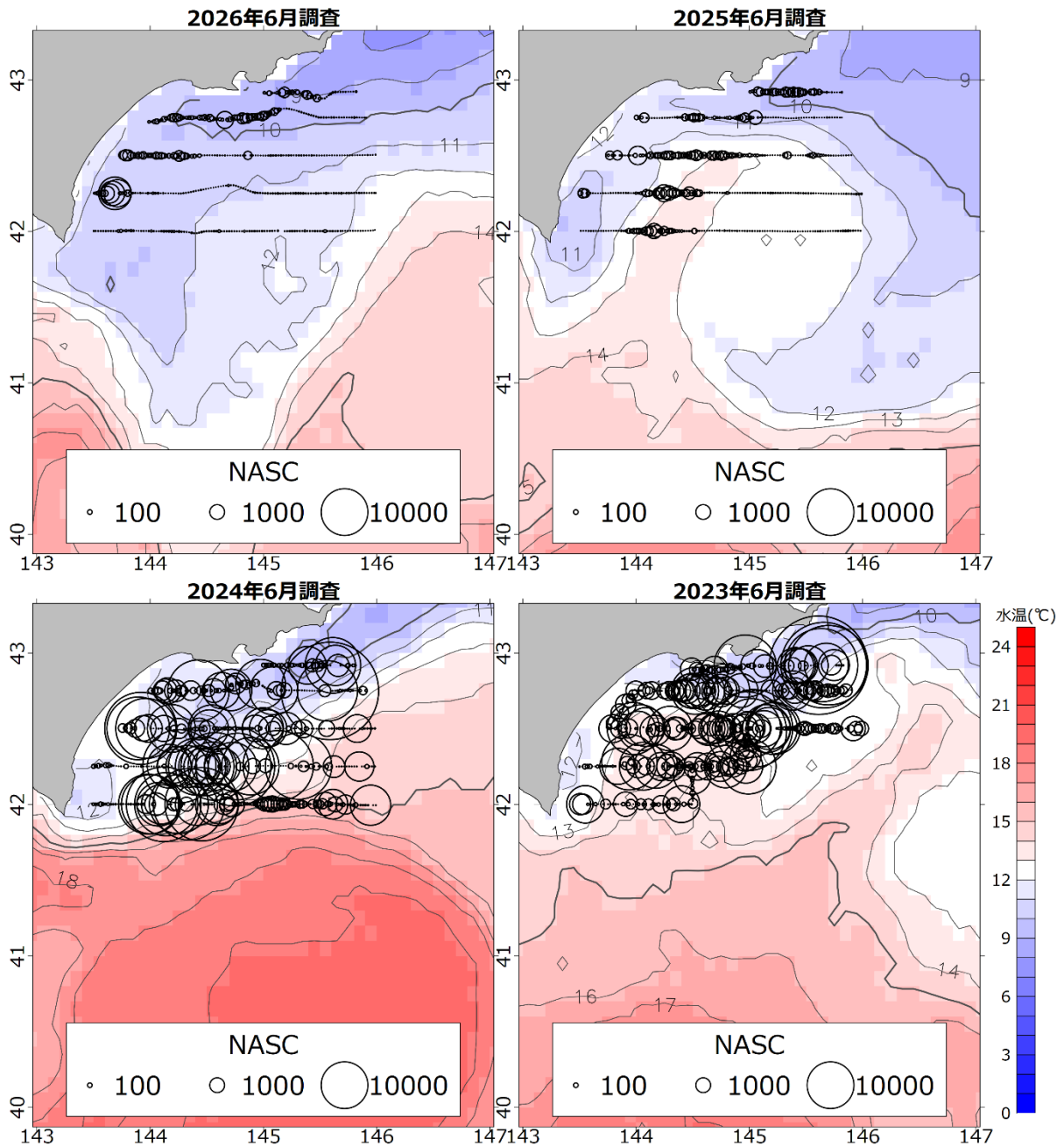


図1 2023年～2026年の6月調査における計量魚群探知機の魚探反応量と表面水温
 (表面水温：NEAR-GOOS 表面水温6月中旬平均値、NASC：1平方マイルあたりの魚探反応量)

表1 調査点の位置，投網日，水温および魚種別漁獲尾数

調査点 番号	調査日	位置		水温			漁獲尾数(尾/時間)			
		北緯	東経	表面	20m	50m	マイワシ	サバ類	カタクチイワシ	スルメイカ
IW01	6/15	42-28	146-03	10.8	7.6	4.1	0	0	190	0
IW02	6/15	42-02	145-58	12.1	7.6	2.8	0	0	0	-
IW03	6/17	42-01	144-09	8.6	4.2	1.9	0	0	82	8
IW04	6/17	42-18	143-45	9.6	5.2	2.7	0	0	0	2
合計							0	0	272	10

※IW02ではスルメイカを含むイカ類が29個体漁獲されました

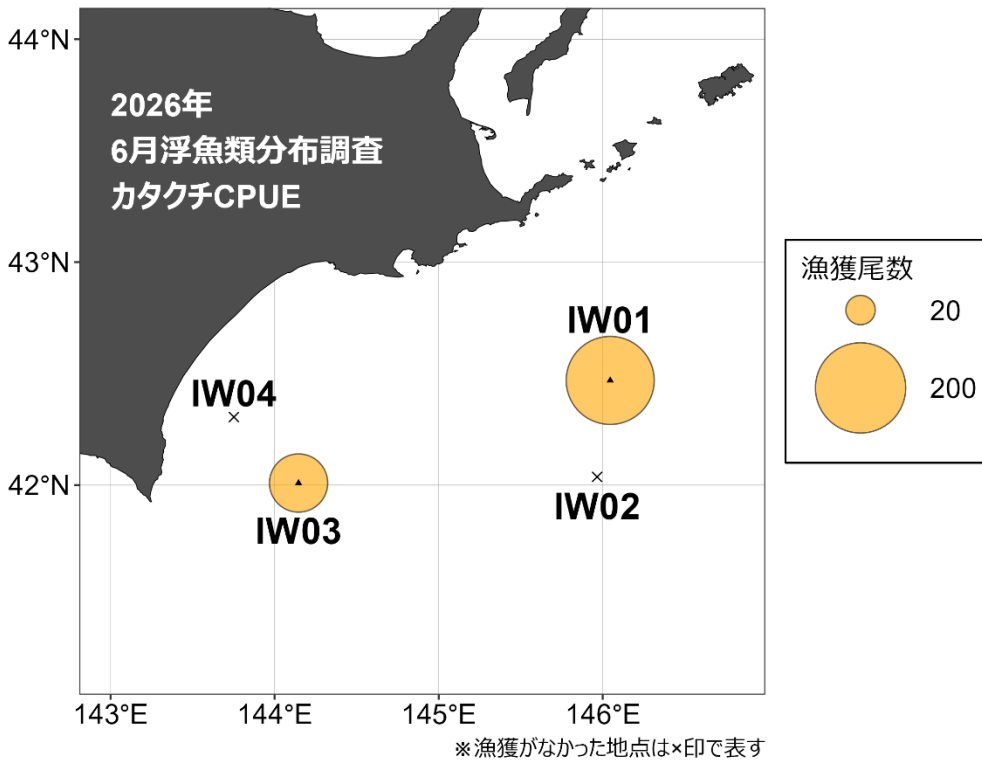


図2 カタクチイワシの調査点別漁獲尾数

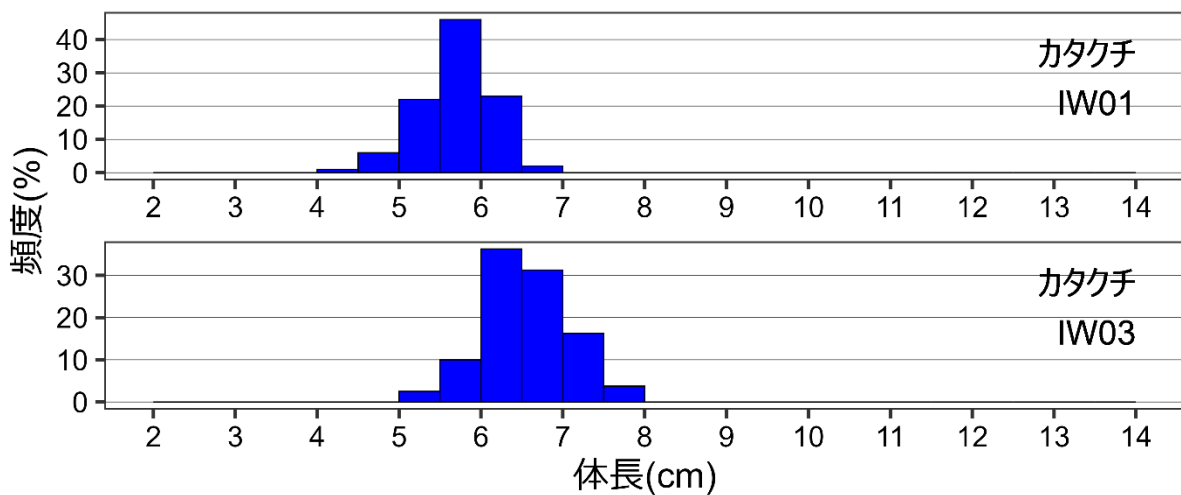


図3 カタクチイワシの調査点別体長組成

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

北辰丸 海洋観測速報（試験運用中） <https://hro-fish.net/hokushin/>
 （釧路水産試験場試験調査船北辰丸の海洋観測結果がご覧になれます。）

お問い合わせ先：釧路水産試験場調査研究部、[TEL:0154-23-6222](tel:0154-23-6222)
[FAX:0154-23-6225](tel:0154-23-6225)